

応用理学部会 研修会 (11/9) 趣旨

地震に対する備えとして、自分たちがどんなところで生活しているのかということは重要であります。地震は、多くの被害をもたらすが、その被害となる元は地盤災害や土砂災害であることが多い。地震に対する抵抗力があるところなのか、まったくないところなのかを把握しておくことと次の対策の手が違ってくると思われます。

地震による被害を予防するには、小さいことながらも身のまわりの改善を重ねることが、急がば廻れ、緊急事態への対応能力を向上させることにもつながります。このような心がまえは準備運動をしておかないと、発生時の精神的なプレッシャーが大きく日頃出来ることさえ効率や対応力が低下してしまいます。その結果、普段では考えられないパニックやミステークを引き起こすこととなります。日頃から、ある種の訓練をしていることや理解していることは、危機管理の成否を占う上で、非常に重要なポイントであり、わが身を守る武器となると思います。何も知識のないところでは、情報があってもその処理がうまくいかず、間に合わなかったり、またはその価値判断すら出来ないことになるのではないのでしょうか。

そういう意味でも、自分たちの生活環境を知っておくことは、初期措置での対応の遅れの防止にもつながるものです。

こと、地震に限らないわけだが、全国レベルで適用できる技術や依存型の解決策だけでは、何事も具体的な成果は得られません。例えば、環境の問題もそうだが、理屈や抽象的に理解できてもローカルな条件に応じた生活文化と一緒にしたものでないとその実現は困難です。したがって、地震防災・減災は地震に関する知識の周知と同時に参加意識を育てることが必要で、大げさに言えば、地域主権というべき考え方であり地域を守るあるいは再生する原動力の一部になるかもしれません。

当部会では、マイマップ作りというテーマで出前講座を実施してきているが、当然ながらそのベースになっているのは地域知です。

そこで今回は、この奥深い「地域」ということを、別な視点で学習することは有意義なことではないかと考え、地域との接し方、自然と寄り添う地域知という個性豊かなものの活用に対して新たな知見を得たいということで開催します。

(講演者)

東北芸術工科大学 (山形市) 東北文化センター 教授 田口 洋美氏

演題 未定

(10/16 (火) 10:30～ 打合せの予定)